

有限会社高野電子工業

特注の検査機を導入し全てのピンの検品の高速化が実現。
一事業所で『検品を含む製品生産』を可能にしたことで、
需要が非常に高く、信頼性のある製品が提供できる

取り組みの経緯

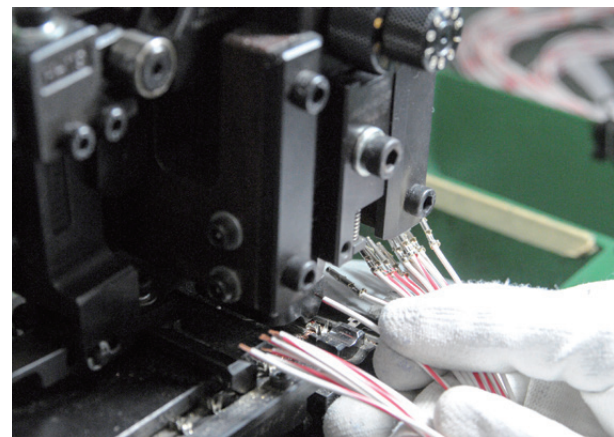
ハーネス加工や制御機器の組み立て・配線、基板の製造など、電気・電子部品を製造する。創業以来、精密機器企業2社のみと取引してきたが、リーマン・ショックで取引先の経営が悪化。大きな打撃を受け、会社の存続も危ぶまれる状況となった。苦肉の策で従業員の生活を守るため外部企業へ派遣。その間、現在の社長である高野直樹さんは、新たな取引先を見つけるため積極的に営業活動を行った。小ロットや急な納期等にも町工場だからこそできる柔軟な対応をアピールしたところ、新たな企業から声がかかるようになってきた。「特にハーネス加工については、創業以来培ってきたノウハウで、低価格・短納期でもお客様に満足してもらえる高品質の商品を提供できる自負がありました」と高野さんは当時を振り返る。取引先は1業種に対して1社と決めて業種のバッチングを避けた。地道な営業活動の結果、徐々に新規の仕事も増えてきた。それに伴い、多様なハーネス製品対応が必要となり、本事業を活用し圧着機と検査機を導入した。

事業の具体的な内容及び効果

既往設置の圧着機4台に加え、今回新たに2台を導入したことにより、作業の順番待ちが解消され、常時、圧着作業が可能となった。その結果、限界生産性が今までの1・5倍となり、より多くの受注が可能となった。今回導入した半自動圧着機は、軽量で低音化されており、従業員やパートでもすぐに使用することができ、技術教育にかかる時間等も大幅

に減少ができた。また、今まで手作業に頼っていた検品作業は、オリジナルの検査機を導入することで、3～15ピンのサイズを自動検品できるようになり、増加するハーネス製品の検品作業時間が短縮された。オリジナルの検査機のために、営業先へかなりのPR効果をもたらした。

鹿行地区の工業地帯にありながら業界からのハーネス受注は少なく、受注があってもロット数が少ないのが現状。これに対応する同業他社も見受けられなかった。小ロットでも対応し今まで外部に出していた検査を自社で行うため、一括生産できるという強みが生まれた。



圧着式ハーネス加工。リズムカルにハーネスを圧着していく

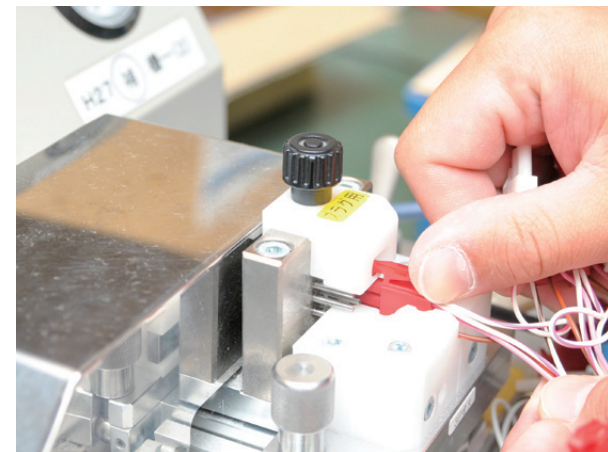
有限会社高野電子工業

〒311-3802 行方市於下1173
TEL.0299-77-1010 FAX.0299-77-0843
http://takano-dk.co.jp
資本金：500万円
従業員：14名

電気機器・部品（ハーネス）の製造、組立配線、基盤製造。生産性の向上と検品体制の構築で、品質の高いハーネス製品を提供し、受注拡大を図る。

事業概要

圧着機の導入により各作業プロジェクトが終了するまでの「順番待ち」が解消。常時、圧着作業が可能となり作業効率と生産性が上昇。また、手作業であった検品を、3～15ピンまで自動検品ができる検品機の導入により、増加するハーネス製品の検品作業時間の短縮、検品の外注を自社で賄うことが可能となった。



2～15ピンまでのすべてのサイズの検査が可能なオリジナルの検査機



以前は目視チェックのみであったが、導入した検査機にある画面でチェックができるようになり、不良品がほぼなくなった

事業成果の活用・今後の取り組み

自社で一括生産を行うことで、低価格・短納期、高品質の商品を提供ができるようになり、従業員の仕事に対するモチベーションが上がった。分からないことがあれば、分かる人に徹底的に聞き理解するまで話し合う。それは社内だけにとどまらず、時には取引先とも行う。取引先とコミュニケーションを深め、よりよい製品に仕上げようと提案することもある。「今後は製品の品質向上と、新たなジャンルの取引先を求めて突き進んでいきたい」と、社長の高野さんは語る。



高野 直樹さん
有限会社高野電子工業
代表取締役

「技術立社に基づき、常に独自の技術とチャレンジ精神で事業の拡大を図ってまいりました。今後も顧客のニーズと期待に応え、信頼される製品を継続的に供給し、地域社会の繁栄を築けるように日々努力してまいります」